

営 農 情 報

平成31年4月15日発行

秋まき小麦起生期分肥の時期がやってきます！

まもなく、秋まき小麦は起生期を迎えます。圃場の生育状況を確認して、最終的に650～700本/㎡の穂数を確保出来るように管理を行いましょう。

当管内ではドリル播きは過繁茂傾向、大豆間作圃場では生育ムラの大きい圃場が散見されます。生育を確認して下記の窒素分肥量を参考に実施して下さい。

○生育に応じた起生期追肥量の目安

起生期茎数	窒素施用量
1500本/㎡以上	2kg
800～1300本/㎡	2～4kg
700～800本/㎡	4～6kg/10a
600本/㎡以下	4～8kg/10a

※BB082CRを基肥として使用している場合は、生育量に応じて不足分を補いましょう。

茎数の調査方法について

《条播の場合》

- ①畝50cm間の茎数を数えましょう。(2カ所)
- ②2カ所の茎数を足して、畝幅で割りましょう。

【式】 $100 \div \text{畝幅 (cm)} \times \{ (50\text{cmの茎数}) + (50\text{cmの茎数}) \} = \text{㎡当たりの茎数}$

《大豆間作の場合》

- ①平均的な2カ所で調査しましょう。
- ②0.66m×0.3mの広さの中の茎数を数えましょう。

【式】 $2\text{カ所の茎数の合計} \times 5.05 = \text{㎡当たりの茎数}$

○起生期分肥実施に伴う注意点

- ・過繁茂気味でも起生期の窒素供給は必要です。
- ・2回目の分肥は生育を見ながら幼穂形成期後7～10日頃に行います。

JAみねのぶ 営農販売課

TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803

※ご不明な点が御座いましたら営農販売課までご連絡下さい。